



林野庁
東北森林管理局
津軽白神森林生態系
保全センター
平成 29 年 7 月 18 日
No.133

平成 29 年度森林と人との協議会を開催しました

6 月 13 日（火）西目屋村の白神山地ビジターセンター会議室において「第 12 回白神山地周辺の森林と人との共生活動に関する協議会」を開催しました。当日は学識経験者はじめ行政担当者やボランティア団体代表者などの委員に出席いただき、例年協議会では、主に白神山地森林生態系保護地域（世界遺産地域）周辺の①NPO等と連携した自然再生活動②モニタリング調査③松くい虫等の対策、といった保全管理について協議ならびに意見交換を行っています。

最初に、東北森林管理局松葉瀬部長から挨拶があり、続いて、田村座長（青森県林業会議参与）の進行により議事に入りました。議事では、当センターや各団体から、昨年度の活動報告と今年度の取組予定について説明があり、アクセス道路の不通により活動が停滞しているといった報告の一方、津軽峠のマザーツリーの樹勢回復に取り組むなど新たな方向性にも言及があったところです。



各団体との意見交換を行いました

また、議事その他では、青森県内のマツクイムシ被害、ナラ枯れ被害の状況に関する報告が県西北地域県民局、津軽森林管理署からあり、民有林・国有林協調した監視・被害木処理に取り組むとの説明がありました。併せて、白神山地世界遺産地域周辺におけるニホンジカ監視状況についてお知らせして欲しいとの意見があり、センサーカメラの設置・データ回収や小型囲いわなによる試行的捕獲に関して当センター寺田所長から報告したところです。

当センターでは協議会の意見を踏まえ、より多くの人の参加をいただきながら自然再生活動を行っていきたいと考えています。（吉川）

第1回白神山地巡視員会議を開催しました

6月10日（土）西目屋村中央公民館において、第1回白神山地世界遺産地域巡視員会議（青森県側）を開催しました。

当日は、あいにくの雨模様でしたが、白神山地世界遺産地域連絡会議関係機関を始め、東北森林管理局長委嘱巡視員ほか総勢54名に出席いただきました。

会議の開催にあたり、計画保全部長より挨拶があり、昨年度に白神山地であった違法行為、ニホンジカの監視、熊被害関連のお話がありました。

引き続き委嘱状交付式があり、今年度から新しく巡視員となられる3名の方に計画保全部長より、委嘱状と巡視員証が交付されました。巡視員となった3名からは、巡視員として活動することへの意気込みを一言ずついただいたところです。

会議内容については、白神山地周辺における各機関の事業計画の説明に始まり、巡視員の活動についての説明、入山マナー向上の協力依頼、合同パトロールの実施、ニホンジカ等の情報収集の説明がありました。

説明事項について、巡視員の方々からは活発な意見や情報提供を頂いたところでもあります。

議事終了後の意見交換では、白神岳登山道の補修や入山マナー、最近よく報道されている熊の話題について、意見を交わしたところです。特に熊については、山菜採りに行った際に襲われたなどの被害が増えており、一部の熊が人の残した食べ物の味を覚え熊鈴の音がする方に人がいる、食べ物があるという様な図式で遭遇し被害に遭うことの様で、つまるところ、山に人が持ち込んだ食べ物を放置しない（ゴミ含む）という入山マナーを守れば、それにより熊の方から寄ってくることも減るのではと考えさせられました。

今後、夏から秋に向け見頃を迎える白神山地周辺には、多くの人々が訪れると思いますが、入山マナーを守り、豊かな自然を満喫することで、楽しい思い出を持ち帰っていただければと願っております。

そのためにも各関係機関、関係市町村、巡視員の皆様の御協力をいただき、入山マナー普及啓発に努めていきます。（三浦）



巡視員会議の様子

《第2回自然再生活動》を開催します【告知】

9月16日（土）に「第2回自然再生活動」を開催します。

募集期間は以下の通りです。

※8月17日（木）～9月1日（金）

（平日8時30分～17時15分まで（土日祝除く））

*詳細につきましては次号の「白神の絆」でお知らせします。

各団体が行う自然再生への連携協力

6月24日（土）～6月25日（日）、日本山岳会青森支部主催による「ブナ林再生&自然観察会」が白神山地・奥赤石（鱒ヶ沢町）の国有林内で行われ、初日の24日、当センター所長による安全指導を実施しました。当山岳会では毎年野営しながら「森の再生事業」を行っていますが、活動箇所が奥地のため、より安全知識が要求されます。この日は初めての参加者もいて、寺田所長から「安全作業で自然再生、森づくりをお願いします。」と期待を込めた指導を行いました。



安全指導

6月25日（日）、白神山地を守る会主催による「白神山地ブナ植樹フェスタ」が赤石川上流域（鱒ヶ沢町）の国有林内で行われ、当センターは津軽森林管理署とともに植樹指導を行ってきました。当日は数年ぶりの快晴に永井代表の挨拶も弾んでいたものと思われ、地元鱒ヶ沢高校生や青森市内の大学生、そのほか全国各地から多くの参加があったようです。大型ブナ苗木の運搬に参加者は随分難儀していましたが、帰り道の爽やかなブナ林散策も含め、みんな充実した一日になったのではないのでしょうか。



植樹作業中

7月1日（土）、日本ユネスコ協会連盟主催による「守ろう地球のたからもの育樹活動」が弘前市湯口山国有林で行われ、当センターは津軽森林管理署ほか協力団体とともに植樹指導を行ってきました。当ユネスコ協会では白神山地の緑を未来の子どもたちに引き継いでいくため、伐採跡地に植栽し、森林の再生を図っており、活動には三菱UFJフィナンシャルグループと青森銀行の行員がボランティア参加しました。



下刈鎌で刈り払い作業中

この日の作業は以前植樹した木の周りを下刈鎌で刈り払うことが主なものですが、灌木処理も含め都市部で暮らす方々にとっては重労働だったのではないのでしょうか。

参加した行員は大粒の汗をかきながらも充実した表情をみせ、この日の活動を終了しました。また、翌日は世界遺産地域となる高倉森への登山活動を予定しているとのことで、原生的な白神山地を体感して帰ってもらえればと思います。なお、育樹や保育管理については津軽人文・自然科学研究会が担っていて、常日頃、協力関係にある多くの団体が応援に駆け付けていました。



参加者全員で記念撮影

当センターでは、白神山地を通じ連携した活動をめざすとともに、こうした独自の取組に対して今後も協力を続けていきたいと考えています。（吉川）

今月の一枚

専門官 有本 実



3種類の蛍の光（2016.7.5 鱒ヶ沢町）

清流で強く長く光るゲンジボタル、水田で弱く短く光るヘイケボタル、森の中で点滅するヒメボタル。白神山地周辺の山峡の里で、これら3種類の蛍の光が一斉に明滅する光景に圧倒されました。この写真の背後には水田が広がっており、その農家の方に話を伺ったところ、「蛍に影響が出ないように、農薬は極力減らしている」との事。“蛍の名所”でも何でもない普通の山里で、普通に乱舞する蛍達。白神の自然の底力が垣間見えました。

